

宮本三郎の青春

— その戦中までの歩み —

2016年
4月2日[土]
▼
7月24日[日]



《花と女》1932年 カンヴァス、油彩



アトリエの宮本三郎 1936年

開館時間: 10:00～18:00 (最終入館は17:30まで)
休館日: 毎週月曜日
(ただし、祝・休日と重なった場合は開館し、翌平日休館)
観覧料: 一般200円(160円)、大高生150円(120円)、
65歳以上/中小生100円(80円)
*障害者の方は100円(80円)、ただし小・中・高・大学生の障害者
は無料。介助者(当該障害者1名につき、1名)は無料。証明書を
ご提示のうえ、お申し出ください。
*()内は20名以上の団体料金
*小・中学生は土、日、祝・休日、夏休み期間は無料

世田谷美術館分館

宮本三郎記念美術館

〒158-0083 東京都世田谷区奥沢5-38-13 TEL: 03-5483-3836
<http://www.miyamotosaburo-annex.jp/>

【交通案内】

電車＝東急大井町線・東横線「自由が丘」駅より徒歩7分／東急大井町線
「九品仏」駅より徒歩8分／東急目黒線「奥沢」駅より徒歩8分

バス＝東急バス(園02)世田谷区民会館～田園調布駅「奥沢六丁目」下車
徒歩1分／東急バス(渋11)渋谷駅～田園調布駅「奥沢六丁目」下車徒歩
1分／東急バス(園01)千歳船橋～田園調布駅「浄水場前」下車徒歩10分

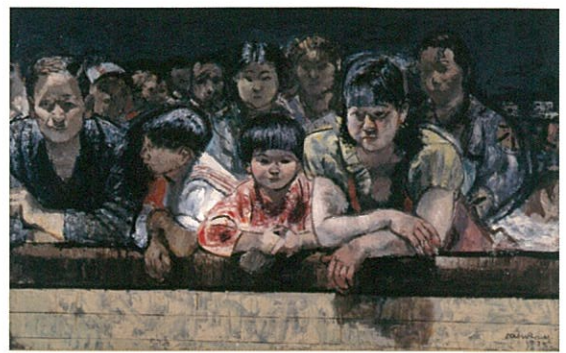
宮本三郎の青春——その戦中までの歩み



《妹・志乃像》1922年 カンヴァス、油彩
*()内は作品名不詳につき仮題



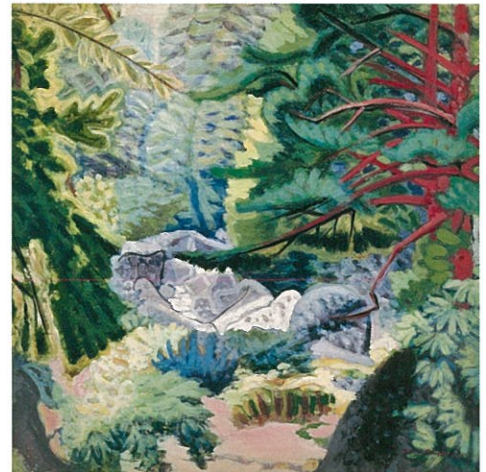
《郊外の町》1939年 板、油彩



《家族席》1934年 カンヴァス、油彩



《青い敷物》1935年 カンヴァス、油彩



《赤松と溪流》1935年 カンヴァス、油彩

平成28年度第1期収蔵品展では、洋画家・宮本三郎(1905-1974)の生涯にわたる画業のうち、画家を志し上京した頃から従軍画家として作戦記録画を手がけるまでの、活動前半期にあたる青年時代の軌跡をご紹介します。

石川県小松市に生まれた宮本は、15歳のとき画家になる夢を抱き、17歳で上京します。川端画学校で藤島武二らに学ぶほか、安井曾太郎に個人的に指導を受けていました。22歳で二科展に初入選を果たし、女性や裸婦、身近な家族を描いた、みずみずしい色彩感覚と巧みなデッサン力に支えられた作品は画壇で注目されるようになっていきます。雑誌の表紙絵や挿絵などの仕事も多く引き受け、多忙な毎日を過ごしていましたが、1938年、33歳で初めての渡欧を果たします。画塾アカデミー・ランソンに通い、ルーヴル美術館で模写に励む日々は、研鑽を積み自らの画業を見つめ直す時間でした。しかし充実した滞在もつかの間、第二次世界大戦勃発とともに帰国を余儀なくされ、戦地に赴き従軍画家として制作を重ねます。戦後になると、作戦記録画を描いたことで厳しい視線を浴びるなど、戦中とは一変した価値観の中で、宮本は新たな画題に取り組むことで画家としての再出発に踏み出します。終戦という出来事を宮本にとっての一つの転換点ととらえ、本展では1945年までの画業、次の第II期収蔵品展では、戦後から晩年の絢爛な裸婦像に到達するまでをご紹介します。

15歳から終戦を迎える40歳までの宮本の25年間は、“生涯の師”と呼んだ藤島武二や安井曾太郎との出会いや渡欧体験を通し、多様な技法と表現を貪欲に吸収し、独自の表現を生み出すための素地を築き上げていった時期です。戦争に象徴される激動の時代に直面しながらも、筆一本で立つことをめざし、日々制作を重ねた洋画家の青年期を追いかけてみます。

ギャラリートーク

展覧会の会期中、学芸員によるギャラリートークを予定しています。

参加費：入館料のみ 場所：宮本三郎記念美術館・2階展示室

*詳細はホームページなどでご確認ください。

世田谷美術館分館

宮本三郎記念美術館

【交通案内】

◎電車＝東急大井町線・東横線「自由が丘」駅より徒歩7分／東急大井町線「九品仏」駅より徒歩8分／東急目黒線「奥沢」駅より徒歩8分 ◎バス＝東急バス(園02)世田谷区民会館～田園調布駅「奥沢六丁目」下車徒歩1分／東急バス(渋11)渋谷駅～田園調布駅「奥沢六丁目」下車徒歩1分／東急バス(園01)千歳船橋～田園調布駅「浄水場前」下車徒歩10分

〒158-0083
東京都世田谷区奥沢5-38-13
TEL:03-5483-3836
<http://www.miyamotosaburo-annex.jp/>



◎宮本和義

世田谷美術館分館

向井潤吉アトリエ館

〒154-0016
東京都世田谷区弦巻2-5-1
TEL:03-5450-9581
<http://www.mukaijunkichi-annex.jp/>



◎宮本和義

◆向井潤吉 水辺の情景

2016年4月2日(土)～7月24日(日)

世田谷美術館分館

清川泰次記念ギャラリー

〒157-0066
東京都世田谷区成城2-22-17
TEL:03-3416-1202
<http://www.kiyokawataiji-annex.jp/>



◎宮本和義

◆新収蔵作品を中心に1 清川泰次 地中海、アジアの旅から
2016年4月2日(土)～7月24日(日)



世田谷美術館

〒157-0075 東京都世田谷区砧公園1-2
TEL:03-3415-6011(代表)
[展覧会のご案内] TEL:03-5777-8600(ハローダイヤル)
<http://www.setagayaartmuseum.or.jp/>
*詳細はホームページなどでご確認ください。

同時開催

企画展

- ◆ファッション史の愉しみ——石山彰ブック・コレクションより—— | 2月13日(土)～4月10日(日)
- ◆竹中工務店400年の夢——時をきざむ建築の文化史 | 4月23日(土)～6月19日(日)
- ◆アルバレス・ブラボ写真展——メキシコ、静かなる光と時 | 7月2日(土)～8月28日(日)

ミュージアムコレクション1

- ◆アーティスト・コロニー・セタガヤ——「白と黒の会」、「砧人会」、「自由が丘文化人会」 | 4月9日(土)～7月10日(日)